

第 34 回安全管理の最新動向講習会

※ プログラム ※

9月13日(金) 大阪会場:社会安全の視点から

テーマの主旨

新技術の開発や実用化に伴い、生産性の向上や効率化も進展し、あわせて私達の生活の利便性も飛躍的に高まるとともに、「安全」に関する関心も高まっています。
一方で、「安全」に関わる分野でも、専門化・高度化・複雑化が進展してきました。
こうした傾向が専門性をより深化させるというメリットがある一方で、総合的・包括的な視点が失われてしまうのでは...という危惧もあります。
今回、大阪会場では、「安全」への多彩なアプローチにチャレンジします。

09:00～09:05

開会挨拶

土屋朋也氏(安全工学会普及委員長・
千代田化工建設株式会社)

09:05～10:35

安全研究の在り方を考える

小澤 守氏(関西大学)



従来の伝統的安全管理手法に科学的リスク管理手法が加わっても依然として建設現場、製造現場、交通運輸の現場などで事故は続いており、少なくとも平成の 30 年間を通じて、直接的原因とその分布はほとんど変化していない。様々な産業システムは多数の要素の組み合わせで出来上がっており、その総体として種々の機能を発揮している。そのようなシステムに個別分散的な事故要因分析はひょっとしたら適切ではないのではないか。システム全体を俯瞰的にみる安全研究の在り方について考えてみたい。

10:45～12:15

インフラ施設の安全管理のために ～隠れた劣化を覗き見る～

一井康二氏(関西大学)



高度成長期に整備された多くのインフラ施設が老朽化している。しかし、インフラ施設の劣化状況を把握することは必ずしも容易ではない。実務では目視による点検に依存する部分が多く、技術者の経験や熟練度の影響を受ける。また、地中部や海中部など、目視による点検すら困難となる場合も多い。このため、安全性を担保するための維持管理を行う上で、様々な技術的課題が存在する。そこで、画像解析や物理探査を利用した、土構造物や港湾構造物の劣化度評価手法の研究事例を紹介する。そして、安全管理のための新技術を社会実装していく上での様々な課題の現状と展望について考察する。

12:15～13:15

(休憩)

13:15～14:45

安全を教える(学ぶ)基盤部分

濱島京子氏(労働安全衛生総合研究所)



安全を学び始める人が、事故や労働災害に至る過程を論理的に捉え、対策と役割を考えるための「考え型」を紹介する。内容は機械安全分野のリスクアセスメント手法であり、「問題解決」の方法論に則って手法を解説するものである。問題解決の思考様式を研究する分野では、問題には構造があり、構造を変えることが問題解決であり、構造を変えない対応は対症療法であるとされる。この方法論に機械リスクアセスメントとスリーステップメソッド(リスク低減方策)の内容がびたりとあてはまる。リスクアセスメントの Know-Why(なぜそう考えるのか)を問題解決の視点で理解できれば、他分野の安全の理解にも役立つのではないかと考えている。

14:55～16:00

ワークショップ:安全管理の管理者視点と現場視点

中村隆宏氏(関西大学)



現場では「管理者は現場のことを少しも分かっていない…」と嘆き、管理者は「現場は管理者の苦勞を理解してくれない…」と嘆く…。こうした構図は以前から繰り返し指摘されていたものの、現在は改善されているのだろうか。いずれの立場であっても「安全」をないがしろにしているはずはないが、相変わらずの構図のままであるとするならば、問題の核心はどこにあるのだろうか。いくつかのワークを通じて、安全管理の基本について改めて検討する。